

2.2. 入院患者の転倒・転落発生率

算式

$$\frac{\text{【分子】 入院中患者に発生した転倒・転落件数}}{\text{【分母】 入院患者延数}} \times 1000$$

(労災病院グループにおけるインシデント・アクシデントレベル3 a以上の事例に限る。)

定義

入院患者の転倒・転落発生割合

指標の解説

施設調査より抽出

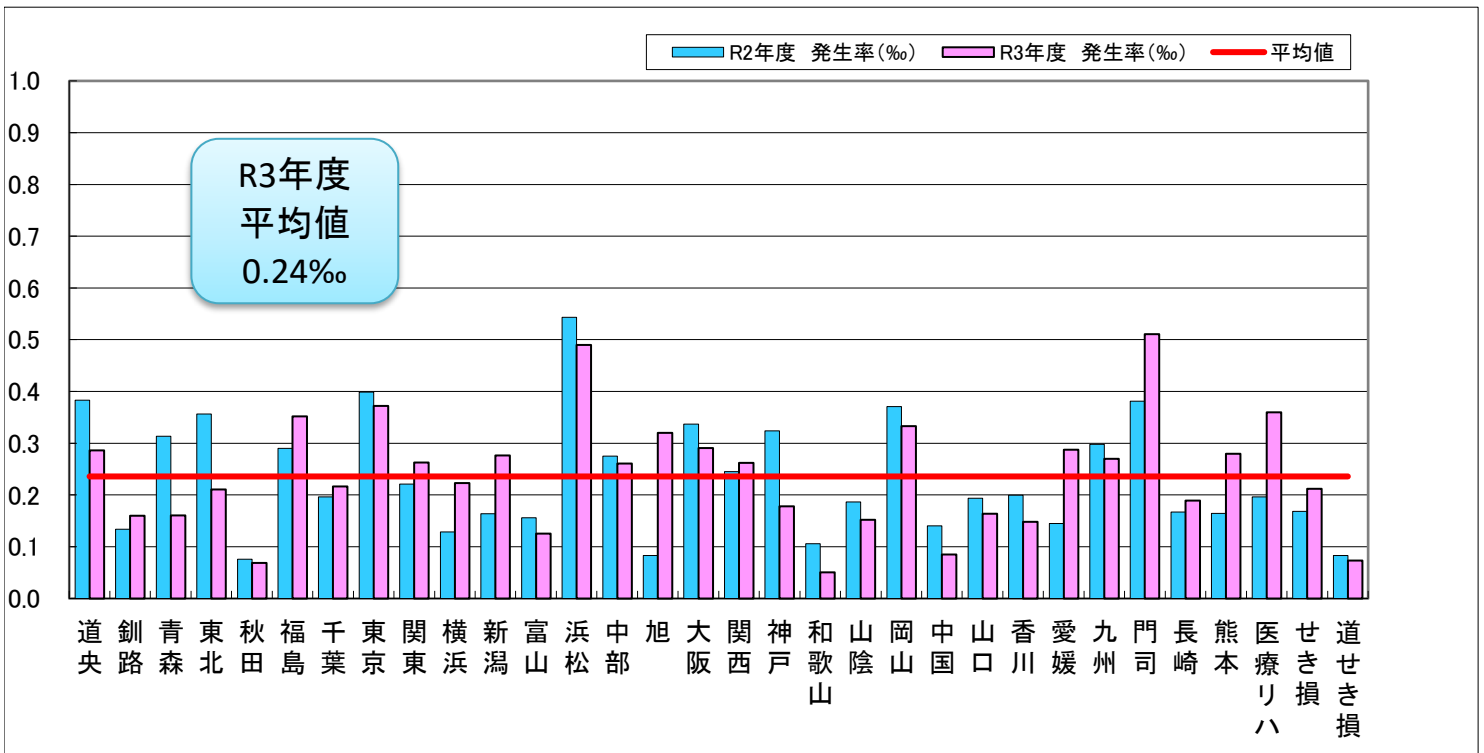
安全で質の高い医療の提供に関して、医療安全対策への取組みについて入院患者の転倒・転落の発生状況から評価する。

インシデント・アクシデント事例の中で転倒・転落件数が最も多く、各病院では医療安全対策の取組みとして転倒・転落のリスクをアセスメントして予防策を立案・実行している。

転倒・転落発生率が低い場合には、転倒・転落予防に積極的に取り組み、またその効果が表れていると評価できる。

※ ‰ = 1000分の1

2.2. 入院患者の転倒・転落発生率



No	施設名	R2年度			R3年度		
		分母	分子	発生率(%)	分母	分子	発生率(%)
1	道央	46,998	18	0.38	48,919	14	0.29
2	釧路	119,593	16	0.13	118,644	19	0.16
3	青森	70,162	22	0.31	68,572	11	0.16
4	東北	131,942	47	0.36	128,309	27	0.21
5	秋田	39,502	3	0.08	43,676	3	0.07
6	福島	93,110	27	0.29	85,186	30	0.35
7	千葉	112,064	22	0.20	110,994	24	0.22
8	東京	87,762	35	0.40	86,074	32	0.37
9	関東	153,734	34	0.22	152,360	40	0.26
10	横浜	163,321	21	0.13	165,723	37	0.22
11	新潟	36,668	6	0.16	32,573	9	0.28
12	富山	70,431	11	0.16	63,964	8	0.13
13	浜松	84,645	46	0.54	83,696	41	0.49
14	中部	141,743	39	0.28	126,531	33	0.26
15	旭部	60,210	5	0.08	62,533	20	0.32
16	大坂	175,054	59	0.34	171,833	50	0.29
17	関西	187,598	46	0.25	183,130	48	0.26
18	神戸	77,247	25	0.32	78,517	14	0.18
19	和歌山	94,438	10	0.11	98,457	5	0.05
20	山陰	96,488	18	0.19	98,598	15	0.15
21	岡山	91,730	34	0.37	84,040	28	0.33
22	中国	106,902	15	0.14	105,953	9	0.08
23	山口	82,697	16	0.19	79,427	13	0.16
24	香川	120,072	24	0.20	114,849	17	0.15
25	愛媛	55,252	8	0.14	52,157	15	0.29
26	九州	117,475	35	0.30	118,561	32	0.27
27	門司	49,819	19	0.38	48,954	25	0.51
28	長崎	89,731	15	0.17	79,237	15	0.19
29	熊本	127,642	21	0.16	121,681	34	0.28
30	医療リハ	25,440	5	0.20	25,003	9	0.36
31	せき損	47,566	8	0.17	47,243	10	0.21
32	道せき損	35,995	3	0.08	40,951	3	0.07
合計		2,993,031	713	0.24	2,926,345	690	0.24
平均	500床以上	158,899	41	0.26	154,648	39	0.25
	400床以上	113,241	24	0.21	110,960	24	0.21
	300床以上	91,350	24	0.26	88,684	21	0.23
	300床未満	48,913	10	0.20	48,595	12	0.24